

平成29年度 学校評価実施報告書

学校名（京都市立九条弘道小学校）

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標	『自ら考え、表現し、共に学び合う子の育成』 ～つけたい力のつながりを考えた意図的・計画的な指導を通して～
具体的な取組	
◎一人ひとりが輝く 学級経営	<ul style="list-style-type: none">・一人ひとりのよさを認め共に高まり合う「学ぶ学級集団」を育てる指導に全力を注ぐ。・焦点化した子どもの姿を通した「子ども理解」を行う。・叱るべき時はきちんと叱り、教えるべき時はきちんと「教える指導」を行う。・掲示物や行動モデルとしての教職員のあり方等、子どもを取り巻く物的環境および人的環境を整備することで、子どもたちの「豊かな言語発達」を促す。
◎一人ひとりの学力を最大限に伸ばす 授業改善	<ul style="list-style-type: none">・子どものつまずきを明確にし、一人ひとりの子どもを「授業で育てる」。・焦点化した「子どもを常に意識した」授業の展開を図る。・一人ひとりの学習活動の場を確保し、「表現する機会」の設定と「表現方法の工夫」を考える。・つけたい力を明確にした授業づくり、またそれらのつながりを意識した年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導を行う。・家庭学習を中心とした「生活リズム」の確立を目指す。
◎人とかかわる力を育てる 教育活動	<ul style="list-style-type: none">・九条弘道ピアサポート教育を通して、人と「かかわり合う喜び」を味わわせる。・九条弘道未来創造型生き方探究教育を通して、夢に向かって「生きる力」を育む。・外国語活動を通して、グローバル社会の中で「共生する力」を養う。・家庭訪問を通して、家庭の果たす役割の「発信・提起」を進める。・学校運営協議会を通して、学校教育活動への「参画」を促す。
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none">・授業中、しっかり話を聞いたり、相手を意識して進んで発表したりしている。(児童)・授業は、めあてとまとめ・ふりかえりがはつきりしていて、分かりやすい。(児童)・家で、15分×学年以上の学習(自学自習も含めて)がいつもできている。(児童)・文字やノートは、ていねいに分かりやすく書いている。(児童)・地域の図書館を利用するなどしながら、学校でも家でも、進んで本を読んでいる。(児童)・子どもが家庭で学習できるように、環境を整えたり、声かけをしたりしている。(保護者)・地域の図書館を利用するなど、本にふれ合せたり、読み聞かせをしたりしている。(保護者)・授業は、分かりやすく工夫されている。(保護者)・全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラム、学力定着テスト等の結果考察	
各種指標結果(1回目)	
○相手意識を持った「話す・聞く」(児童)	= A…40.0% B…45.6% C…12.8% D… 1.6%
×めあて・まとめ・ふりかえり(児童)	= A…65.6% B…25.6% C… 8.8% D… 0.0%
×家庭学習(15分×学年以上)(児童)	= A…68.8% B…22.4% C… 8.0% D… 0.8%
○文字・ノート丁寧に(児童)	= A…48.8% B…32.0% C…18.4% D… 0.8%
○読書習慣[図書館・学校・家庭](児童)	= A…52.8% B…25.6% C…16.0% D… 5.6%

	<p>○家庭での学習環境整備（保護者） = A…63.8%</p> <p>○本にふれ合わせる（保護者） = A…43.8%</p> <p>△工夫ある分かりやすい授業（保護者） = A…66.3%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○積極的・肯定的な評価（『A.よくできる』・『B.だいたいできている』）が前年度と比較し増加しているものとして、次のものが挙げられる。</p> <p>〔「相手意識を持った『話す・聞く』」、「ノートづくり」、「図書館の利用・読書の習慣化」、「学習環境整備」〕</p> <p>△消極的・否定的な評価（『C.あまりできていない』・『D.できていない』）が前年度と比較し増加しているものとしては、次のものが挙げられる。</p> <p>〔「授業が分かる」、「家庭学習」、「分かりやすい授業」〕</p> <p>●文字やノートを丁寧に書くことや1時間の学びをノートにまとめていくことは、全ての学年で定着しつつある。これは、これまで5年間、継続して取り組んでいる「ノート検定」の成果と言える。しかし、検定している算数科以外のノートは丁寧に書けていなかったり、分かりやすいノートづくりを常に意識できているわけではなかったりするなど、文字やノートを丁寧に分かりやすく書くことの意義を子ども自身が十分に理解できていない部分がある。</p> <p>●読書に関する項目は、毎年数値が低く、課題となっていたが、『A.よくできる』が大きく伸びており、改善が見られる。一方で、『C.あまりできていない』・『D.できていない』の数値も合計2.7%増加している部分が気になるところである。人数にして3～4名であるので、学級内での子どもの様子を観察し、その様子や背景をつかむ必要がある。また、保護者の読書に対する意識も若干の改善が見られたとはいえ、依然低位であることから、保護者の意識を高められるような手立てを考えていく必要がある。</p> <p>▲「相手意識を持った『話す・聞く』」については、上位層と下位層とともに減少し、中間層だけが増加している。この結果は、実際に「相手意識を持った『話す・聞く』」ができていない他、児童が自分自身の姿を正しく評価できていない可能性、どのような姿が目指すべき姿なのかを理解できていない可能性、教師が児童に正しく指導できていない可能性を示している。</p> <p>▲「つけたい力」「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を意識した授業づくり、「授業振り返りシート」を活用した授業改善を継続して行っているが、「授業が分かる」と答えている児童の割合が減少していることからつまずきのある児童が増えていることが分かる。</p> <p>▲「責任を持ってそうじをする」、「15分×学年以上の家庭学習ができる」などの項目では、『B.だいたいできている』（中間層）が減少し、『A.よくできる』『D.できていない』が増加するなど、二極化している様相を見て取ることができる。中には、家庭的背景により生活習慣や家庭での学習習慣が定着しない児童や学習面での課題のある児童が含まれていることから、個の課題に応じた支援を行っていく必要がある。</p> <p>▲「15分×学年以上の家庭学習」は、単に学習時間を伸ばすことを目指したものではなく、家庭学習の定着と内容の充実を目指したものである。継続して取り組んでいるからこそ、やらなくてはならないという意識は子どもや教員の中に定着しているが、達成し継続していくための具体的な手立てが十分でないところがある。「家庭学習」は、現在、九条中プロックにおける小中一貫教育においても重点目標に挙げ取り組んでいるものであり、形骸化することのないよう工夫・改善していく必要がある。</p>

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ノート検定」の取組においては、正しくノートを書く（書き写す）に留まる指導からの脱却を図る。児童自身が、自らのがんばりや成長をとらえられるような取組していくため、自分の考えや友達の意見等をノートに書き留める発展的なノートづくりに重点をおいていく。そのために、まず児童は発展的なノートのとり方について知る必要がある。よって、担任は、教科学習や家庭学習など、様々な場面で、発展的なノートのとり方をその価値とあわせて指導をしていくようにする。 ・授業づくりに関しては、「授業振り返りシート」を活用し、「つけたい力」や「ねらい」を明確化し、実践とその評価を通して常に授業改善を行う。また、児童の学習状況を丁寧に見取り、児童の姿や学習状況をもとに授業を振り返るようにする。 ・相手意識を持って話したり聞いたりすることについても、主として授業を通してその力や態度を育成していくことから、授業改善を行っていく必要がある。授業が「問題発見・解決的な学習」、「他者との協働的な学び」、「自らの考えを広げ深める対話的な学び」となっているかを常に検証しながら、必然性のある学習を展開していくことで、主体的に伝え合う相手意識を持った「話す・聞く」につなげていく。また、難聴学級設置校として、相手意識を持って話したり聞いたりすることは相手を大切にすることであることを再度認識し直し、人権教育を始めとするあらゆる場面で指導するようとする。 ・「授業が分かること」、「自学自習」の根底に、基礎基本の定着を欠くことはできない。そこで、児童の実態に応じた発展・補充学習を展開するとともに、45分間の授業のさらなる充実を図る。 ・読書については、学級内での子どもの読書の様子を観察し、まずは実態を把握する。それとともに、読み聞かせやブックトークを行ったり、教科学習の中で学校図書館を活用したりすることを通して、読書に対する意欲や活用能力の向上を図ったり、多様な図書にふれることができるようになる。また、読書の時間を確保するようとする。 ・保護者に対しても、図書だよりや学級通信、学級懇談会での話題として積極的に取り上げるなど、読書に対する興味・関心や意識を高めることを目指す。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を見ていると、前期に高まった意欲を後期まで継続できにくいうところがあるので、前期の段階で昨年度後期に比べて数値が低いのが気になる。 ・早寝・早起き・朝ごはん、さらには睡眠時間や睡眠の質の重要性を皆で理解していくといよい。→今年度の「学校保健委員会」で取り上げるとともに保護者に参加を呼びかける。 ・「手伝い」「ありがとうを言う・ほめる」の項目で数値が高まっているのはよいが、「親子の会話」が減っているのが気になる。 →今年度の「子どもを語る会」での協議のテーマに「子どもたちを会話で育む」ことを取り上げるとともに参加を呼びかける。 →今の保護者批判にならないように留意しながら、皆が前向きに子育てに向かえるように話し合えるようにする。 ・安全教育の取組の成果もあり、交通安全や防災等、安全に関する知識や意識の高まりを感じる。 →今後も地域で子どもたちを見守る。また、避難所体験学習等の学校行事に積極的に参加する。 ・文字を丁寧に書く力、ノートを自力でまとめる力は大切にしてほしい。「ノート検定」のねらいや成果が分かった。 ・「自由研究」の取組に感心した。どの子どもも創意工夫しながら、また研究したことを分かりや

	<p>すぐまとめられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に関わる項目が毎年低く、課題になっているが、あまり改善が見られない。読書することのよさを皆がとらえると共に、読書の時間を確保することが大切である。大人も子どもも新聞を読まなくなっている。 ・小中学校ともに、児童生徒が活動したり発表したりする姿は立派である。 		
	評価日 平成29年9月26日	評価者 学校運営協議会	
各種指標結果（2回目）			[肯定的な回答が増加…赤字、否定的な回答が増加…青字]
○相手意識を持った「話す・聞く」（児童）	= A…40.0%→40.7% B…45.6%→46.6%	C…12.8%→11.9% D… 1.6%→0.8%	
◎めあて・まとめ・ふりかえり（児童）	= A…65.6%→69.6% B…25.6%→25.2%	C… 8.8%→ 4.3% D… 0.0%→ 0.9%	
△家庭学習（15分×学年以上）（児童）	= A…68.8%→55.3% B…22.4%→28.1%	C… 8.0%→14.9% D… 0.8%→ 1.8%	
○文字・ノート丁寧に（児童）	= A…48.8%→50.0% B…32.0%→33.3%	C…18.4%→14.0% D… 0.8%→ 2.6%	
△読書習慣[図書館・学校・家庭]（児童）	= A…52.8%→46.4% B…25.6%→29.5%	C…16.0%→17.0% D… 5.6%→ 7.1%	
△家庭での学習環境整備（保護者）	= A…26.1%→17.8% B…59.7%→71.3%	C… 9.2%→ 8.9% D… 1.7%→ 0.0%	
△本にふれ合わせる（保護者）	= A…16.8%→12.0% B…16.8%→19.7%	C…39.5%→46.7% D…26.1%→20.5%	
△工夫ある分かりやすい授業（保護者）	= A…38.7%→38.7% B…49.6%→45.3%	C… 3.4%→ 4.7% D… 0.8%→ 2.0%	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○「相手意識を持った『話す・聞く』、『ノートづくり』の項目では、積極的・肯定的な評価（『A.よくできる』・『B.だいたいできている』）が前期と比較し増加している。これらは、前年度から継続して向上が見られており、指導や取組の成果があがっていると言える。相手を意識して話したり聞いたりすることは、教科学習の中で培う技能面だけでなく、難聴教育・人権教育の中でも大切にしてきたことである。また、九条弘道小未来創造型生き方探求教育の中で、人とかかわることや表現することを繰り返し経験してきたことが、子どもたちの表現に関わる力の向上につながっていると言える。</p> <p>△ノートづくりについては、自らの学びのために取り組んでいるという意識や主体性は十分とは言えない。しかし、「ノート検定」の取組は、子どもたちが文字やノートを丁寧に書き、分かりやすいノートづくりをする動機づけにはなっていることから、今後も取り組み方の工夫を考えながら「ノート検定」は継続していくことで一層の成果を見込むことができると考えている。</p> <p>○「授業が分かる、めあて・まとめ・ふりかえりがあり分かりやすい授業」という授業改善に関する項目は、過去4年間の結果と比較すると、年々数値が向上している。これは、校内研究を通して、「めあて・まとめ・振り返り」のある学習を全ての授業の中で一貫して行うことで、教師も子どもも毎時間の学習ごとに、その時間の中で学ぶべき内容をとらえられるようにし、1時間での学びを振り返ることができるようになってきた成果であると言える。</p>		

△授業改善に関する項目に対する保護者の回答は、消極的・否定的な評価が増加している。これは、学校教育がめざす方向性や各担任の方針等が、保護者に十分に伝わっていないことの現れであると言える。

△生活科・総合的な学習の時間の中で行ったアンケート結果からは、「話す・聞く」表現に対する自信を高めている子どもが多数いるが、「書く」表現については苦手意識を持つ子どもが多いことが分かっている。今年度は、様々な場面で、人と対話する中で学びを深めていくことを大切にしてきたが、相手がおり双方向で表現を行う場面では、自分の考えや事実、伝えたいことなどを正確に表現できなかつたとしても相互に補い合うことで伝え合うことができる。一方で、「書く」ことを通して、伝えるべき事柄を正確に相手に伝えることは、情報がより整理され、その構成も分かりやすいものとならなくてはないと見えるが、この点では、子どもたちに多様な表現の機会を十分に与えることができていなかつたといえ、それが子どもたち自身によるマイナス評価にもつながつたと考えられる。

×家庭での読書習慣や家庭学習に関する項目は、子どもも保護者も大きく数値を下げている。家庭学習の充実は、九条中ブロックにおける小中一貫教育の中でも重点目標に挙げていたものであるが、その進め方や具体案等について全体で協議することができず各自の実践に委ねるのみになってしまったことが大きな反省である。

×読書の習慣づくりについては、家庭に呼びかけるだけでなく、学校内でもその仕組みをつくり、本好きの子どもを育んでいくことが必要であるが、学力向上やその他の取組に重点を置く中で、子どもたちが本にふれられる時間を十分に確保できなかつたことが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・授業改善に関する項目への保護者の評価の低下に対しては、今後も授業改善を続けていくことと共に、授業のねらいや学習活動の意図、またその評価の方法や結果などをしっかりと保護者に向けて発信していくこと、また、より多くの保護者に授業を見ていただけるようにしたり、学校教育について語り合ったりできるようにすることを図っていく。
- ・授業の充実に向けては、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成をめざして、教科横断的な学習を充実させていく。また、1時間の授業だけでなく、単元など一定のまとまりの中で、これらの資質・能力の習得・活用・探究のバランスを工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の充実につなげていく。
- ・学校全体としては、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立していく。
- ・家庭学習の充実に向けての取組はこれから検討と試行を重ねていくことであるが、例えば、基礎学力の定着に向けた反復練習と新たに学習した内容を織り交ぜた学習課題を準備したり、次の日の学習につなぐ視点で予習を取り入れた課題を設定したりするなど、全体で共有する価値のある取組を自学級で進めている教員もいる。まずは校内で、次は中学校ブロック内で、家庭学習の充実に向けた各自の実践を交流したり、よりよい方法や内容を検討したりしていくようにする。
- ・係活動や児童会活動など主体的な活動の充実、学級・学校内における人間関係づくり・集団づくり、表現・発表の機会の充実、運動の習慣化や体力の保持増進等、授業時間外でその推進に向け様々に取り組んでいることがある中では、より計画的に各取組を充実させていく必要がある。読書習慣の定着に向けては、学校司書との連携を図りながら意図的・計画的に進めていく。

学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもも教職員も何事にも真面目に一生懸命取り組んでいる。 <p>→地域・保護者としてできるサポートは行うが、学校からの情報発信が重要である。</p> <p>→地域行事の中にも子どもたちが活躍できる場面を設定していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの話し方や聞き方は素晴らしい、行事等を仲間と協力して行う姿が素晴らしい。 <p>→発表する力は定着してきたが、内容を深めるような対話はまだまだできていない。今後は相手の話をどのように聞くかを意識し、聞く力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による一方的な学習から、子どもたちが中心となって行う学習、双方向性のある学習になっている。何を教えたかより、何ができるようになったのか、またどのように学んだかが重視される学習は時代の要請であると思う。 ・読書習慣に関する項目は毎回数値が低いが、今の家庭生活の中に、本だけでなく新聞等、活字にふれる機会がないのではないか。また、保護者自身に図書にふれる時間がなく、子どもの読書習慣の定着化に向けては、学校が担う部分が大きいことは否めないのかもしれない。 <p>→学校生活の中で本にふれる時間を持つようにする。また、家庭でも本にふれることができるよう保護者と共に具体的な方策を考え実践するようにする。</p>
	<p>評価日 平成30年2月28日 評価者 学校運営協議会</p>

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

自分の大切さと共に他の人の大切さを認め、具体的な態度や行動に表現できる子どもの育成

具体的な取組

◎すべての子どもが人権尊重を基盤にした人権感覚を身につけ、同和問題をはじめとする人権問題の解決に向けて行動化できる態度を育成する。

- ・学級活動、道徳の時間、社会科等の学習を通して
- ・人権月間の取組、校内掲示の充実、保護者啓発参観・懇談会を通して
- ・授業研究、校内研修を通して

◎子ども理解を基盤とした教育活動を推進し、子どもたち一人ひとりの主体性を育成する。

- ・一人ひとりの子どもと徹底的に向き合う生活指導を通して
- ・個々の子どもの様子、子ども同士の関係性、家庭での様子等の丁寧な見取りを通して
- ・学校・家庭間の連携強化、家庭訪問の充実を通して
- ・各種調査および九条中ブロック社会性チェックリストを活用した実態把握・課題分析を通して

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校生活が、楽しい。（児童）　・子どもは、楽しく学校生活を送っている。（保護者）
- ・いじわるやなかまはずれなど、いやなことをしないで、友達の気持ちを考え、誰とでもなかよくできている。（児童）　・子どもは、誰とでもなかよくできている。（保護者）
- ・学校のきまり「九条弘道っ子のやくそく」をしっかりと守っている。（児童）　・家庭でも、学校のきまり「九条弘道っ子のやくそく」を掲示するなどして、いつも守らせている。（保護者）
- ・予定や時間、生活リズム表などを守って、時計を見て行動ができている。（児童）
- ・誰にでも、自分から進んではつきりとあいさつしている。（児童）　・子どもは、明るく元気なあいさつができる。（保護者）
- ・「おはよう」や「おかえり」などのあいさつを大人からするようにしている。（保護者）
- ・そうじの時間いっぱい、責任を持って、すみずみまできれいにしている。（児童）
- ・クラスの人や他学年の人、学校などの役に立っている。（児童）
- ・自分がしたことで、人に「ありがとう」を言ってもらったり、ほめてもらったりしている。（児童）
- ・社会や人の役に立つよい行いや努力する姿をほめ、大人も見本となるよう心がけたり声をかけたりしている。（保護者）
- ・九条弘道小子どもを語る会や学校運営協議会における意見交流（学校・家庭・地域）
- ・九条中ブロック小中合同研修会や3校プロジェクトにおける実態把握、課題分析、実践交流（教職員）

各種指標結果（1回目）

×楽しい学校生活（児童）	= A…69.6% B…22.4% C…2.4% D…5.6%
△子どもの楽しい学校生活（保護者）	= A…72.5%
△誰とでもなかよく（児童）	= A…70.4% B…24.8% C…4.8% D…0%
○子どもが誰とでもなかよく（保護者）	= A…63.8%
△学校のきまりを守る（児童）	= A…64.0% B…30.4% C…4.8% D…0.8%
△学校のきまりを守らせる（保護者）	= A…55.0%
△予定や時間を意識した自主的行動（児童）	= A…48.0% B…41.5% C…9.8% D…0.8%
×誰にでも、自分から進んであいさつ（児童）	= A…58.4% B…32.0% C…7.2% D…2.4%
○明るく元気なあいさつができる子ども（保護者）	= A…61.3%

	<p>△大人からのあいさつ（保護者） = A…71.3%</p> <p>×責任を持って清掃活動（児童） = A…60.0% B…29.6% C…9.6% D…0.8%</p> <p>×人や社会の役に立っている（児童） = A…48.0% B…36.8% C…10.4% D…4.8%</p> <p>○人から「ありがとう」「ほめられる」（児童） = A…73.6% B…22.4% C…3.2% D…0.8%</p> <p>△よい行いや努力をほめ、見本となる（保護者） = A…56.3%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○積極的・肯定的な評価（『A.よくできる』・『B.だいたいできている』）が前年度と比較し増加しているものとして、次のものが挙げられる。</p> <p>「ありがとうと言ってもらったり、ほめてもらったりしている」</p> <p>※「誰とでもなかよく」、「明るく元気なあいさつ」は、保護者については肯定的な評価であるが、児童の評価は否定的なものが増加している。</p> <p>△消極的・否定的な評価（『C.あまりできていない』・『D.できていない』）が前年度と比較し増加しているものとしては、次のものが挙げられる。</p> <p>「楽しい学校生活」、「誰とでもなかよく」、「学校のきまり」、「人や社会の役に立っている」、「予定や時間を意識した自主的行動」、「進んであいさつ」、「責任を持って清掃活動」、「人や社会の役に立っている」</p> <p>▲学校での約束は、概ね守ることができているが、人や場所によって姿を変え、正しい行動をとることができていない姿が児童の中に見られる。また、学校のきまりを守ることや生活習慣を整えることが子ども成長の中でどのような価値があるのかについての理解が保護者の中で十分なされていない様子が見られ、アンケートにおいても重要度・実現度ともに低くなっている。</p> <p>▲「楽しい」ことは大事だが「誰とでもなかよく」はそれほど重要でないと考える保護者が20%程度いることからは、大人の価値観の多様化や利己主義的思考の増加を感じるところである。</p> <p>▲児童の問題行動や児童間トラブル等は少なく、児童は落ち着いて学校生活を送ることができている。一方で、マナー・モラル面の低下を感じる場面が見られる部分がある。</p> <p>▲学校が「楽しくない」と回答している児童が5.6%（7名）と、前年度比4.8%増加している。一方で、「いじわるや仲間はずれをしないで誰とでもなかよくできている」と回答している児童は、前年度比1.2%増加している。これは、表面的には、児童同士の関係がうまくいっているように見えて、実際は困りや悩みを抱えている児童がいることを示しているとも言える。それとともに、児童自身は誰とでもなかよくできていると感じていても、知らず知らずの間に友達を傷つけるような言動等をとってしまっている可能性もあると言える。</p> <p>▲大人の意識がいかに大切かということを見て取ることができる。大人の「重要度」が低いものは、「実現度」が低くなっている。「重要度」が低いものとしては、「読書習慣」、「PTA行事・地域行事への参加」、「学校のきまり」に関する項目が挙げられる。一方で、教職員の児童に対するかわりや授業、学校運営に関する項目の「重要度」は高く、学校教育への関心や期待を窺い知ることができる。ただし、保護者自身の行動を問う項目の「重要度」は低いことから、子どものためにできることを大人自らが進んで行うことの価値やさまざまな取組のねらい等について、十分に理解されていないことが分かる。</p> <p>▲気にかかるのは、児童自身の自己評価と保護者による評価のズれである。「楽しい学校生活」、「誰とでもなかよく」、「あいさつ」などの項目では、保護者の評価は高く、児童の評価は低くなっている。同じ判断基準で評価すること、児童の思いや状況を見取ることを大切にする必要がある。</p>

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童がおかれている状況や思いをしっかりと把握する。そして、それらを表面的にとらえるに留まらず、その背景までとらえることで、課題等の解決を図ができるようとする。 規範意識や社会性に関わる事柄について、その育成を目指して、児童にかかわるまわりの大人が同じ姿勢で同様のことを伝え続けるようとする。また、児童一人ひとりに活躍の場や機会を意図的に設け、努力やがんばりなどを認め、よりよい行動等を価値づけすると共にメタ認知を図る。さらには、自己評価や相互評価など、多様な評価を通して、それぞれのよさを中心としながらありのままの姿、そして成長やがんばりを認めていくようとする。 「いつでも」「どこでも」「誰にでも」をキーワードに、全ての教職員が規範意識や自律心の育成を目指して徹底的に指導する。また、教職員の入れ替わりがある中でも、学校のきまりについて、その必要性や価値、背景などを引き継ぎ、全ての教職員が同じ姿勢で指導できるようにしていく。 学校評価アンケートで取り上げている20項目、とりわけ数値の低い項目について、教職員間はもとより、学校・家庭・地域が共に考える機会を持つ。特に、学級懇談会では、保護者にも行動目標を持ってもらい、その後の様子を定期的に聞き取るようにする。教職員についても同様に定期的に振り返りの機会を持つようとする。 学校、家庭、地域が意見や考えを交流できる場として「子どもを語る会」や「学級懇談会」等を設定しているが、「家庭を巻き込む」をキーワードに、保護者との連携強化を図る。全ての教職員がそれぞれの立場でできるかかわりを保護者に対して行い、行事等への参加をうながしていく。また、参加された保護者が「来てよかったです」「また参加したい」と思えるよう内容を充実させる。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の登校時に元気がないのが気になる。一方で、学校に来た時や児童の登下校の際に、児童からあいさつをされることが増えたのがうれしい。 <p>→今後も積極的に児童に声をかけるようとする。大人は、積極的に学校行事等に参加するようにし、児童の日頃のがんばりの様子を見ておくが大切である。そうすることで、児童に顔を覚えてもらったり、よいことでも悪いことでも児童に声をかけることができるようになったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童は、地域の中で問題行動を起こすようなことはなく、学校でも地域でも非常にがんばっている。しかし、大人は、よくない姿に対して注意をしがちである。 <p>→児童が自ら社会のルールやマナーを守り行動できるようにしていくために、児童のがんばりをまずしっかりと見取り、具体的に認めていくようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人同士があいさつをしたり、地域の中で、また家庭の中で楽しく会話したりすることを大切にする。児童はその大人の姿を見ることで、あいさつや人とのかかわり方について学んでいく。
評価日	平成29年9月26日
評価者	学校運営協議会
各種指標結果（2回目）	[肯定的な回答が増加…赤字、否定的な回答が増加…青字]
◎楽しい学校生活（児童）	= A…69.6%→75.2% B…22.4%→18.8% C… 2.4%→ 3.4% D… 5.6%→ 2.6%
○子どもの楽しい学校生活（保護者）	= A…50.4%→45.3% B…43.7%→51.2% C… 2.5%→ 3.5% D… 1.7%→ 0.0%
○誰とでもなかよく（児童）	= A…70.4%→67.5% B…24.8%→26.7% C… 4.8%→ 3.3% D… 0.0%→ 2.5%
△子どもが誰とでもなかよく（保護者）	= A…25.2%→30.5% B…63.9%→57.1%

		C… 5.9%→ 9.3% D… 0.8%→ 0.0%
△学校のきまりを守る（児童）	=	A…64.0%→59.8% B…30.4%→34.2% C… 4.8%→ 3.4% D… 0.8%→ 2.6%
○学校のきまりを守らせる（保護者）	=	A…24.4%→19.2% B…41.2%→50.2% C…19.3%→24.3% D… 8.4%→ 5.5%
✗ 予定や時間を意識した自主的行動（児童）	=	A…48.0%→37.0% B…41.5%→44.5% C… 9.8%→13.4% D… 0.8%→ 5.0%
✗ 誰にでも、自分から進んであいさつ（児童）	=	A…58.4%→47.9% B…32.0%→39.3% C… 7.2%→11.1% D… 2.4%→ 1.7%
✗ 明るく元気なあいさつができる子ども（保護者）	=	A…24.4%→17.8% B…52.9%→52.9% C…19.3%→28.2% D… 1.7%→ 1.2%
○大人からのあいさつ（保護者）	=	A…44.5%→42.1% B…48.7%→52.9% C… 4.2%→ 3.9% D… 0.0%→ 1.2%
○責任を持って清掃活動（児童）	=	A…60.0%→52.5% B…29.6%→37.5% C… 9.6%→ 8.3% D… 0.8%→ 1.7%
○人や社会の役に立っている（児童）	=	A…48.0%→36.7% B…36.8%→50.0% C…10.4%→ 7.5% D… 4.8%→ 5.8%
✗ 人から「ありがとう」「ほめられる」（児童）	=	A…73.6%→65.0% B…22.4%→26.5% C… 3.2%→ 6.8% D… 0.8%→ 1.7%
△よい行いや努力をほめ、見本となる（保護者）	=	A…16.8%→21.0% B…57.1%→52.8% C…14.3%→24.2% D… 2.5%→ 0.0%

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○積極的・肯定的な評価（『A.よくできる』・『B.だいたいできている』）が前期と比較し増加しているものとして、次のものが挙げられる。 「楽しい学校生活」、「誰とでもなかよく（子ども）」、「学校のきまり（保護者）」、「大人からのあいさつ（保護者）」、「責任を持って清掃活動」「人や社会の役に立っている」</p> <p>△消極的・否定的な評価（『C.あまりできていない』・『D.できていない』）が前期と比較し増加しているものとしては、次のものが挙げられる。 「誰とでもなかよく（保護者）」、「学校のきまり（子ども）」、「予定や時間を意識した自主的行動」、「進んであいさつ」、「ありがとう・ほめられる」、「行動・努力をほめ、見本となる」</p> <p>○自分や友達のよさを見つめ、自他共に大切にすること、また、異年齢の子どもたちのかかわりを通して人とかかわることのよさをとらえることをめざし、人権教育やピアサポート教育の充実を図ってきた。この成果が、子ども同士が同学年間、異学年間共に優しく穏やかにかかわり合う姿につながっている。</p> <p>△前期同様、子どもの問題行動やトラブル等は少なく、子どもたちは落ち着いて学校生活を送ることができている。一方で、マナー・モラル面の低下を感じる場面が一部において見られている。</p> <p>△「九条学習プラン」や「九条生活プラン」の定着化やこれまでの指導の積み上げにより大きな問題行動が見られなくなったため、教職員内でも学校のきまりや学習規律等について確認したり共通理解を図ったりする機会が少くなっている。このことが、子どもの規範意識の低下、教職員や保護者の中での危機感の低下につながっていると思われる。</p>
------	--

	<p>△子どもに対する「楽しい学校生活」や「誰とでもなかよく」の質問項目は、全体としては向上しているが、わずかではあるが消極的・否定的な評価をしている子どもが増加していることは見逃してはならない。これは、学校の中に「楽しくない」「なかよくできていない」と感じている子どもが確実に存在していることを示しているが、保護者に対する「誰とでもなかよく」の数値でも、一部が上昇し、一部が低下していることからも同様のことが言える。</p> <p>△「ありがとう」「ほめられる」の項目に対する子どもの回答、「よい行いや努力をほめ、見本となる」の項目に対する保護者の回答では、消極的・否定的な評価がいずれにおいても増加している。これは、大人が子どもたちの努力や望ましい行動を認めることができていない点では改善すべき課題である。しかし、別の質問項目「人や社会の役に立っている」では、わずかではあるが積極的・肯定的な評価をしている子どもが増えている。これは、大人が直接的に子どもたちをほめたり認めたりすることをしていなくても、自らの行動を通して、自らを評価し、肯定的な感情を持つことができている子どもが増えていることを表している。</p> <p>△「誰とでもなかよく」と「学校のきまり」の項目については、子どもと保護者の間で認識・評価にずれが見られるが、やはり保護者による積極的・肯定的な評価は子どものものと比較して大幅に低い状況が続いている。</p>
学校 関係 者評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの言動や視線、表情、集団の様子などに、常に気を配り、表面的に見える部分だけでなく子どもたちの内面にしっかりと目を向けるようにし、細かなサインを見逃さないようにする。また、その意識を全教職員が持ち、同じ姿勢で子どもたちの指導にあたるようにする。 ・悩みや困りを抱える子どもの存在に気づくことができるよう、一人ひとりの子どもの様子や学級・学校全体の様子を細かに見取るようにする。また、学校では見えていない子どもの困りや悩みについても把握できるよう、家庭とのさらなる連携を図っていく。ここでは、保護者から信頼され得る学校・教職員であるよう、子どもたち一人ひとりを徹底的に大切にする姿勢でもって、迅速かつ的確、丁寧な対応ができるように心がけると共に校内での情報共有を大切にする。 ・子どもたちの努力や望ましい行動を認めることは続けていくが、やみくもにほめるのではなく、子ども自身が努力できたと感じていることを積極的に認め、またより望ましい姿を子どもと大人が共有できるようにしていく。ここでは、結果だけでなく、そこに至る過程を重視するようになると共に、子ども自らが自分の行為について評価できるような仕組みを整えていく。 ・学校のきまりについて、保護者への周知を一層図っていく。また、学校のきまりとして定めてある内容やその理由についてはもちろんのこと、学校のきまりの意義・目的についてもしっかりと伝え、理解をいただくと共に価値観を共有することで、子どもたちのよりよい成長につなげていく。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一見すると、積極的・肯定的な評価（『A.よくできる』・『B.だいたいできている』）が減少している項目が目立つかもしれないが、これらA・Bの数値を合わせたものが大きく下がっていないのであればそれほど心配する必要はないと思う。 ・毎年、数値の増減は、若干はあるにしても、高い水準にあることはまちがいがない。数値が下がったのは、子ども自身が自らを厳しく評価することができるようになったからとも考えられる。また、評価基準があいまいであるので、大人も子ども主観的に判断せざるを得ない項目も多くあるので、細かな数値の増減に一喜一憂する必要はない。（例えば、「よく手伝いをしている」とはどれぐらいの内容をどの程度すればどの評価になるのかが分からぬ。毎日手伝いをしている子

どもであっても漠然としている子どもは評価が上がりにくいのではないか。)

- ・地域でのあいさつは以前よりよくなつたようと思える。地域行事や学校行事等を通して、子どもと顔見知りになったことがこの結果につながつたのだと思う。しかし、朝の登校時の子どもたちは元気がなく、自ら進んであいさつする姿はあまり見られないのが課題と言える。
- ・地域行事にたくさんの子どもや教員が参加し、学校、子どもと地域の距離が非常に近くなっている。
 - 今後も、子どもと地域の人たちとが顔見知りでいられるよう、あいさつや声かけを続けていく。
 - 地域の中で、多くの目で、子どもたちの様子を見守っていく。また、大人が子どもたちに正しい姿を見せていく。
 - 地域行事への子どもたちの参加を積極的に呼びかける。

評価日	平成30年2月28日	評価者	学校運営協議会
-----	------------	-----	---------

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

実践力と判断力を身につけた 高い自己管理意識を持つ子どもの育成

具体的な取組

- ①自分の身体の状態を把握し、望ましい生活習慣を送ることができているかを考え、改善すべき点は積極的に改善しようとする力を養う。
- ②集中力や記憶力、思考力などを高めるためには、基本的な生活習慣が確立していること、そして健康な体づくりができていることが基盤となることを理解させる。
- ③感染症に対する予防の知識理解と意識の定着を図る。
- ④心身の健康の保持・増進のために、学んだことを実践し、継続して取り組める力を養う。
 - ・ほけんだよりを通じての学級指導および保護者への理解推進
 - ・保健学習・保健指導の充実
 - ・生活リズム表の作成と活用を通した基本的生活習慣の定着
 - ・いきいき週間の取組
 - ・家庭を巻き込み推進するいきいき週間および生活リズム表の活用
 - ・睡眠の大切さについて学び、睡眠への意識向上をはかる眠育の推進
 - ・感染症予防についての指導および日常生活下での継続実施
 - ・手洗い、うがい指導の徹底
 - ・歯の健康についての保健教育
 - ・正しいトイレの使い方の指導
 - ・性教育・エイズ予防教育
 - ・薬物乱用防止教室（6年）
 - ・視力低下予防のための取組
 - ・健康相談活動
 - ・環境衛生管理の徹底、共通理解

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気をつけた生活がいつもできている。（児童）
- ・子どもが楽しく学校生活が送れるように、生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）を整えている。（保護者）
- ・家庭でも、学校のきまり「九条弘道っ子のやくそく」を掲示するなどして、いつも守らせている。（保護者）
- ・九条弘道小子どもを語る会や学校運営協議会、学校保健委員会における意見交流（学校・家庭・地域・学校医）
- ・九条中ブロック小中合同研修会や3校プロジェクトにおける実態把握、課題分析、実践交流（教職員）

各種指標結果（1回目）

- 予定や時間を意識した自主的行動（児童） = A…48.0% B…41.5% C…9.8% D…0.8%
- ×基本的な生活習慣（児童） = A…65.6% B…25.6% C…8.8% D…0%
- 家庭での生活習慣づくり（保護者） = A…62.5%
- △学校のきまりを守る（児童） = A…64.0% B…30.4% C…4.8% D…0.8%
- △学校のきまりを守らせる（保護者） = A…55.0%

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○積極的・肯定的な評価（『A.よくできる』・『B.だいたいできている』）が前年度と比較し増加しているものとして、次のものが挙げられる。 [「予定や時間を意識した自主的行動」、「家庭での生活習慣づくり」…前年度と同数値]</p> <p>△消極的・否定的な評価（『C.あまりできっていない』・『D.できっていない』）が前年度と比較し増加しているものとしては、次のものが挙げられる。 [「基本的な生活習慣」、「学校のきまり」]</p> <p>▲「予定や時間を意識した自主的行動」は、『A.よくできる』・『B.だいたいできている』の合計は増加し、否定的な評価は減少しているが、『A.よくできる』が6.4%も減少している。下位層の状況改善は、個への働きかけや対応の成果であるが、上位層が大きく減少していることから、全体を引き上げる仕組みや取り組み方を考えいかなくてはならない。</p> <p>▲基本的生活習慣は、児童の回答結果によると、『A.よくできる』が21%減少し、『C.あまりできていない』『D.できっていない』が合わせて10.5%増加している。</p> <p>●家庭における生活習慣づくりに対する保護者の重要度および実現度は、概ね昨年度通りであるが重要度は年々向上しており、意識の高まりと各取組の定着が進んでいることが分かる。</p> <p>▲基本的生活習慣に関する項目について、毎月「いきいき週間」の取組の中で確認するとともに、毎朝の健康観察時にも確認をしている。その成果として、健やかな体を育むために大切にすべきことについての理解は非常に進んでいる。しかし、毎日チェックをすることを通して生活を改善したり行動を改めたりすることには難しさも出てきている。</p> <p>▲生活習慣を整えることでどのようなよさがあるのかについて、正しく理解したり実感を伴って感じたりする必要性がある。</p> <p>▲児童・保護者ともに、学校のきまりを始めとする規則や規律、マナー等に対する意識が低下している。様々なきまりや約束等を守ることが、集団生活や社会生活を送っていく上でどのように役立つかということなど、その意味や価値をとらえさせていく必要がある。</p> <p>▲教職員の中にも、きまりや約束に対する理解のずれや指導の差異が見られる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣を含め生活習慣に関わる課題は、各家庭の生活実態や就労状況、家族関係などによる部分も大きい。だからといって、家庭に理解や協力を一方的に求めるばかりでは改善を図ることは難しい。よって、保護者と繰り返し話をする中で、また学校教育を通して児童をよりよく高めていく中で、保護者に絶えず訴えていくようにする。この意味からも、家庭訪問を重視し、また学校に足を運んでもらえる働きかけを積極的に行うようにもする。 ・保健指導を通して児童に正しい知識を身につけさせ、学級指導を通してそれらを実践できるようにする。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた「いきいき週間」等の取組を進めていることの意義や必要性などの理解をうながしていくために、学校から依頼したり情報を発信したりするだけでなく、学校と保護者とがともに話したり考えたりする機会を持つようにする。例えば、保健だよりや学校ホームページ、学級懇談会等を積極的に活用する。また、学級懇談会で取り上げる場合は、事前に教職員間でその内容について共通理解をし、全ての学級で同様に取り扱えるようにしておく。 ・学校保健委員会を始めとする様々な取組や行事への保護者の参加人数を増やし、また関心を持って主体的に参加いただくために、その運営や発信の方法について工夫・改善を行う。学校保健委員会

	<p>員会を例に考えるとするならば、子育ての中で保護者が困っていることや知りたいこと等を学級懇談会やアンケートなどを通じて事前に把握する。そして、その需要をもとにいくつかの内容やテーマを選定し、学級懇談会などで繰り返し話題にする。また、そこで分かったことやさらに知りたいと思ったことを学校保健委員会で取り上げる。このように、保護者の思いや願い、疑問に寄り添いながら繰り返し話題にしていくこと、また、参加した保護者が「役に立った」「参加してよかったです」と思えるようにしていくことを大切にしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を整えるため、自らの生活を継続的に改善していくために、自分がなすべきことを考え、実践できるような主体性を育みたい。そのために、「いきいき週間」や「健康観察」の中で児童の状況をチェックすることに加え、児童自身が改善していくための具体的な目標を設定するようにし、細かに振り返り改善していくことを日々の生活の中で行うようにする。 ・児童に身につけさせたい学校のきまりを始めとする規則や規律、マナー等について教職員間で共通理解を図り、児童の指導に同じ姿勢であったができるようになる。
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にとって、子どもを早く寝かせることの第一義は、子どもの健やかな成長を目指すためよりも、自分の時間をつくるためである部分が大きいかもしれません。 ・子どもと過ごす時間が限られている中で、大切にすべきことがたくさんあります。例えば、家庭学習の時間確保と親子の会話と家庭での読書、家の手伝いなどを充実させながら早寝をさせることは難しい。 <p>→生活習慣と学力、進学や就職状況との相関関係を示すことができればよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に、実践力と判断力を身につけさせ、健康・安全を確保するという視点から、今後も健康教育や安全教育を充実させていく。昨年度に引き続き、緊急災害時における避難所体験学習を実施する。また、今年度、本校新たに導入された緊急地震速報受信システムを活用し、児童自らが判断し行動することを目指した避難訓練も実施する。 <p>→今年度も、行政、学校、学校運営協議会安全委員会とで内容や実施方法等を検討していく。</p>
評価日	平成29年9月26日
評価者	学校運営協議会
各種指標結果（2回目）	[肯定的な回答が増加…赤字、否定的な回答が増加…青字]
△予定や時間を意識した自主的行動（児童）	= A…48.0%→37.0% B…41.5%→44.5% C… 9.8%→13.4% D… 0.8%→ 5.0%
△基本的な生活習慣（児童）	= A…44.8%→47.8% B…40.8%→36.5% C…12.0%→13.9% D… 2.4%→ 1.7%
○家庭での生活習慣づくり（保護者）	= A…25.2%→22.0% B…56.3%→64.9% C…14.3%→11.2% D… 2.5%→ 1.9%
△学校のきまりを守る（児童）	= A…64.0%→59.8% B…30.4%→34.2% C… 4.8%→ 3.4% D… 0.8%→ 2.6%
○学校のきまりを守らせる（保護者）	= A…24.4%→19.2% B…41.2%→50.2% C…19.3%→24.3% D… 8.4%→ 5.5%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>△生活習慣に関する項目で、子どもと保護者の意識にずれが見られる。毎月1回実施している「いきいき週間」では、7日間の子どもたちの生活の様子をチェックし、保護者にも振り返りをしていただいているが、保護者の意識が低下している部分があるように思われる。</p> <p>△多くの子どもたちは、就寝時刻、起床時刻、食事等を意識した生活を送ることができるようにな</p>

	<p>つてきてはいるが、家庭学習を含めた家庭での時間管理にはつなげられていないというのが実情であるように思われる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いきいき週間」は継続し、「保健だより」等で健康教育への理解推進を図る。また、メール配信を活用した保護者への呼びかけも検討する。 ・学校保健委員会への参加者数が毎年少ないので、設定日時や内容の工夫、効果的な広報を通して、より多くの保護者と健康・安全教育等「健やかな体」の育成に向けて話し合い、子育てに生かしていただけるような機会とするようにしたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイナス評価も「できていないところに気づくことができた」と考えれば、自分のことが分かったという意味では「価値あるマイナス評価」とも言える。 <p>→課題に気づくことは自分を高めるチャンスとすることもできるということであるから、プラスに変えることができるようにしていくことが大切である。課題をもとに今後どうしていくかを考えていくとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を見つめ、自分の成長やその過程、課題を知ることができるということは素晴らしいことだと思う。過去においては、そのような自己評価の機会はなく、大人から一方的に価値を押し付けられるだけであったと言える。 <p>→今後も、子ども自身が自らの成長をとらえられるような自己評価や大人からの価値づけをしっかりと行っていくとよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーについては正しい知識や価値観をしっかりと子どもに与えていく必要がある。いいことも悪いことも含めて、自分自身の行動やあり方がどうなのかを見つめられるようにしないといけない。叱られることがあったとしても、なぜ叱られているのかが分かることやなるほどと聞くことができる必要である。 ・「自分の生命は自分で守る子」をめざし、安全教育を推進し、学校運営協議会安全委員会や地域、区役所、消防署、警察署との連携を図り、第2回「避難所体験学習」では、しっかりと学ぶ子どもの姿が見られた。 <p>→地域防災の観点からは、保護者の意識向上を図っていかなくてはならない。保護者を巻き込む仕組みを考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いきいき週間」は、全項目を○にすることを重視するのではなく、保護者と子どもの生活習慣に対する意識を改善することをめざして今後も継続していく。
評価日	平成30年2月28日
評価者	学校運営協議会

(4) 学校独自の取組

重点目標

夢や志を持ち、その実現に向けて主体的に学び、自己の責任を果たす子どもの育成

具体的な取組

◎未来創造型生き方探究教育の推進

- ・「ふれあいタウン」の実施
- ・「3Cプロジェクト」の推進
- ・協働活動を通した自己有用感・主体性の向上のための取組

◎小中一貫教育の推進

- ・保幼小中連携、小小連携、小中一貫教育の取組推進、アンケート項目の検討
- ・「学習プラン・生活プラン」の実施・活用
- ・児童・教員・PTAの交流

◎家庭との連携、情報発信の充実

- ・積極的なホームページの更新
- ・学校だよりの内容（「学校教育方針」「小中一貫教育」等）の充実

（取組結果を検証する）各種指標

- ・学校やPTA、地域などの行事や取組に進んで大人も参加し、まわりの人とかかわろうとしている。（保護者）
- ・子どもが地域の行事や休日のPTA行事などに参加できるよう積極的に声かけをしている。（保護者）
- ・参観や懇談会などに参加し、学校の様子を知ろうとしている。（保護者）
- ・子どもたち一人ひとりが大切にされ、認められる学校になっている。（保護者）
- ・気になることがあれば、気軽に学校に相談できる。（保護者）
- ・学校は、おたよりやホームページ等で学校の様子を積極的に伝えている。（保護者）
- ・授業や取組後の振り返り（児童・教職員）
- ・九条弘道小子どもを語る会や学校運営協議会における意見交流（学校・家庭・地域）
- ・九条中ブロック小中合同研修会や3校プロジェクトにおける実態把握、課題分析、実践交流（教職員）
- ・学校ホームページへのアクセス数

各種指標結果（1回目）

○学校やPTA、地域などの行事への参加（保護者） = A…53.8%

○学校やPTA、地域などの行事への参加を子どもに声かけ（保護者） = A…50.0%

○参観や懇談会などへの参加、学校への関心（保護者） = A…63.8%

△子どもたち一人ひとりが大切にされ、認められる学校（保護者） = A…61.3%

○気軽に相談できる学校（保護者） = A…62.5%

○学校は、おたよりやホームページ等で学校の様子を積極的に伝えている。（保護者） = A…71.3%

×授業や取組後の振り返り（児童・教職員） = A…65.6% B…25.6% C…8.8% D…0%

・学校ホームページへのアクセス数 = 13850件（H29.10.13 前期終了時）

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○積極的・肯定的な評価（『A.よくできる』・『B.だいたいできている』）が前年度と比較し増加しているものとして、次のものが挙げられる。</p> <div style="margin-left: 20px;">〔「地域行事・休日行事への参加」…昨年度同様、「参観や懇談会などへの参加」、「気軽に相談できる学校」、「おたより・ホームページ等での情報発信」〕</div> <p>△「消極的・否定的な評価（『C.あまりできっていない』・『D.できていない』）が前年度と比較し増加しているものとしては、次のものが挙げられる。</p> <div style="margin-left: 20px;">〔「子どもたちが大切にされ認められる学校」、「授業が分かる」〕</div> <p>▲昨年度末のアンケートと比較し、全体的に下がっている。本校が大切であると考えている事柄を日頃から意識して指導できているか、子どもや家庭にかかわることができているかを見直す必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「学校独自の取組」を検証する指標としては挙げていないが、各家庭における保護者と子どもとのかかわりに関する項目の数値が高まっている。これは、学校教育や子育てに対する保護者の意識が改善されていることを示しているとも言える。 <p>…前年度と比較し、伸びが見られる項目</p> <div style="margin-left: 20px;">〔「図書館の利用・読書の習慣化」、「ありがとう・ほめられる」、「地域行事・休日行事への参加」〕</div> <div style="margin-left: 20px;">〔「学習準備」、「家での手伝い」、「安全意識」〕</div> <p>▲「子どもたちが大切にされ、認められる学校」の項目で数値が下がっていることは、「楽しい学校生活」や「誰とでもなかよく」の項目での数値の低下と関連があると思われる。児童が日々の生活の中で困りや悩みを抱え、その解決ができていないことがある可能性がある。また、「家の人と何でもよく話している」の数値が下がっていることから、その困りや悩みを誰かに伝えることができない児童がいる可能性がある。</p> <p>▲「学習プラン・生活プラン」についての指導と教職員内での共通理解が十分にできていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校ホームページやメール配信を活用し、細かに情報を発信することができており、これら学校から発信される情報に対する保護者の関心が高まっている。 ●九条中ブロックにおける小中一貫教育の目標を意識した指導や具体的な取組を進めることができている。また、小中合同研修会や3校プロジェクト会議の定期実施により、中学校ブロック全体で児童生徒の実態把握や課題分析、指導についての実践交流等を進めている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「やりたい」と思う心の育成を第一とする。全ての教育活動において、子どもの主体性を大切にしながら、探究的・課題解決的な学びを仕組んでいく。 ・「ふれあいタウン（未来創造型生き方探究教育の取組）」に対する子どもの関心意欲は高いが、取組ありきでなく、つけたい力やねらいを明確にした授業を構築していく。 ・「授業振り返りシート」を活用するなどしながら、総合的な学習の時間や生活科を中心として、全ての教育活動で「キャリア教育でつけたい力」を意識した指導を行う。 ・「ピア・サポート教育」の取組も見直しが必要であり、それぞれの活動の価値やねらいを確かにしながら意図的な指導や仕組みをつくっていく。 ・小中一貫教育全国サミットの準備を進める中で、現在行っている小中一貫教育の取組等の意味・目的を再度確認し、深化させる。そして、3校共通の取組はもとより自校教育のさらなる充実を目指す。
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・3校プロジェクトの中では、3校共通で取り組んでいることだけでなく、自校や自分自身が独自に行っていることについて積極的に交流する。その中で、より高い教育効果が見込まれる取組等を次年度以降に九条中ブロック内で実施できるよう実践と検証を継続する。 ・学校運営協議会における評価システムを軌道に乗せ、学校教育目標の具現化に向けて、取組等を定期的に検証し、改善を図る。 ・ホームページの更新頻度や内容の工夫、学校だよりの内容および構成の工夫などを行い、積極的に情報を発信することを継続する。
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校を見ても小学校を見ても、全体として児童生徒はよく育っていると思う。 ・今年は地域行事にたくさんの児童が参加している。先日のデイキャンプには全校の3分の1の児童が参加していた。内容を工夫し、児童に楽しんでもらう中で、この輪が広まり、まだ参加したことがない児童も参加してもらえるとうれしい。 <p>→学校からは児童や保護者に地域行事への参加をうながす。地域は内容の工夫・改善を行いながら次の担い手を育てていく。</p> <p>→児童の発表の場や各種行事に、学校運営協議会の委員に限らず、より多くの者が参加できるよう学校から広く呼びかけることとあわせて、学校運営協議会や各自治会、PTA本部より参加を要請するようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人も積極的に子どもとかかわり、顔を覚えてもらい、さらに関係づくりを進めていくことで、様々な取組がさらに価値のあるものになると思う。 ・学校と学校運営協議会各委員会、放課後まなび教室や学童クラブ、そして保護者など、子どもとかかる立場の者との連携、共通理解を図り、規範意識や社会性、学力の向上を図る。
評価日	平成29年9月26日
評価者	学校運営協議会
各種指標結果（2回目）	[肯定的な回答が増加…赤字、否定的な回答が増加…青字]
△学校やPTA、地域などの行事への参加（保護者）	= A…14.3%→11.2% B…49.6%→50.6% C…26.9%→31.3% D… 5.0%→ 5.8%
○学校やPTA、地域などの行事への参加を子どもに声かけ（保護者）	= A…10.9%→10.4% B…42.0%→49.4% C…35.3%→33.6% D… 9.2%→ 6.6%
×参観や懇談会などへの参加、学校への関心（保護者）	= A…33.6%→23.3% B…42.0%→46.5% C…19.3%→27.5% D… 3.4%→ 2.7%
○子どもたち一人ひとりが大切にされ、認められる学校（保護者）	= A…31.9%→38.3% B…48.7%→43.0% C… 7.6%→ 7.4% D… 0.8%→ 3.1%
×気軽に相談できる学校（保護者）	= A…32.8%→30.5% B…47.1%→45.3% C…10.9%→15.6% D… 2.5%→ 5.9%
×学校は、おたよりやホームページ等で学校の様子を積極的に伝えている。（保護者）	= A…44.5%→44.5% B…47.9%→43.8% C… 5.0%→ 7.4% D… 0.0%→ 2.3%
×「3C」を常に意識し、具体的な取組や指導の工夫を行っている。（教職員）	

= A…30.0%→**18.2%** B…60.0%→**54.5%**

C…10.0%→**27.3%** D… 0.0%→ 0.0%

・学校ホームページへのアクセス数 = 22743 件 (H30.3.16 現在)

自己評価	分析（成果と課題）
	<p>○学校が重点を置いて取り組んだことには成果ができるこことを確認することができた。</p> <p>（例えば、学力向上や授業改善をめざして研究を深めた近年においては、毎年、授業改善に関する項目での向上が見られる。また、自己有用感の向上をめざして、子どもたち一人ひとりに活躍の機会を与え、子どもたちが努力する姿をほめ、認めることに注力した時期には、自己有用感に関する項目が高い結果を見せている。他にも、小中一貫教育の中で、あいさつに重点を置いて取り組んだ時期では、その項目が高くなっている。）</p> <p>△重点的に取り組んだ事柄については成果が出ると考えると、一方では、数値が下がっている項目については、今年度の取組内容や方法、その実践にあたる我々教職員の姿勢などはどうであったのかを振り返っておく必要がある。</p> <p>×問題発生時だけでなく、日頃から家庭との連絡を密にし、連携をとることを進めてはいるが、保護者の行事や参観授業・懇談会への参加は減少している。また、「気軽に相談できる学校」の項目では大きく数値を落としている。</p> <p>×後期以降、通常の学校行事や授業等に加えて、人権教育についての全国発表や小中一貫教育全国サミット、研究発表会（生活科・総合的な学習の時間）などが立て続いたことが影響したのか、担任によるホームページの更新や学級通信等での情報発信が十分になされなかつた部分がある。結果、「学校による情報発信」に関する項目の数値は低下し、ホームページへのアクセス数も減少している。</p> <p>×たくましさやしなやかさをいかにして育むかが課題である。少人数の学校であることを強みとして、これまできめ細やかな指導や支援を行ってきたが、それがかえってたくましさやしなやかさを高める機会を失わせていました側面もあるかもしれないと考えている。学校教育目標に「たくましさ」を追記はしたが、たくましい子どもとはどのような子どもなのか、またその育成のためにどのような教育が必要なのかを共通理解することができていなかった。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">・子どもの実態をふまえた学校教育目標やめざす子ども像を設定するのは当然のことであるが、その実現に向けては、めざす姿をより具体化し、共有化していく必要がある。来年度は、そのめざす姿の具体化と目標達成に向けた具体的な取組や指導について、全教職員、また地域・家庭と熟議していく。そして、全ての教育活動を学校教育目標等と関連づけながら行い、細かに評価・検証し、改善を図っていくようとする。・保護者のPTAメール配信システムへの登録が全ての家庭において行われるようにすると共に、メール配信を活用した情報発信や行事等の呼びかけも行うようとする。・学校の取組や学校運営協議会としての取組や組織を客観的に評価し、改善していくための仕組みとして、新たに評価委員会を立ち上げた。ここでの評価を機に、これまでの学校運営協議会関連の取組や地域行事等を見直し始めている。来年度は、今後学校教育の中で子どもたちに育むべき資質・能力の育成の視点から、各取組の充実化はもちろんのこと、学校・家庭・地域が担う役割の確認・整理・分離等の再編を行っていく。・「学習プラン」「生活プラン」を学校で指導するだけでなく、家庭・地域にも浸透させ、子どもたちが身につけるべき事柄を同じ姿勢で教えていけるようにする。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・学力向上や授業改善、規則正しい生活習慣の確立など、重点的に取り組んだ事柄については、学校評価アンケートで高い数値となっている。このことからも、子どもは素直であり、大人の働きかけで伸びることがよく分かる。・経年変化を見していくと、全般的にずっと向上しているようである。子どもも教員も一生懸命に取り組んできた成果だと思う。・一人ひとりの子どもが自分を出すことができる学校、活躍することができる学校になっていると思う。教師が決めたことをこなすのではなく、子ども自身が主体的に考え、判断し、行動できる学習や行事がたくさんあることは素晴らしいことだと思う。
	→学校・家庭・地域・子どもの連携がうまく図れしており、伝統となっている行事もある。これらも工夫・改善しながら継続していく。
	<ul style="list-style-type: none">・参観授業や懇談会、学校行事への保護者の参加が減少しているようであるが、仕事をしている保護者にとっては平日に参加することは難しくもあるのが実情だと思う。「ふれあいタウン」やその広報をおこなった「CM発表会」などは、保護者だけでなく地域の人たちにもぜひ参加してもらいたいものであったが、地域からの参加者も平日開催ではどうしても人員が限られてしまう。地域との連携強化を考えているのであれば、地域の人たちが参加しやすい設定を考える必要があると思う。
	→保護者や地域との連携を図ったり、学校の取組を大きく発信することができたりする行事については休日開催を検討するとよい。
	→学校は、取組や子どもたちの様子を積極的に発信されているのでよいと思うが、おたよりやホームページ等をほとんど見ていない人もいるようなので発信方法にさらなる工夫も必要である。
	→今取り組んでいることをより今の子どもや保護者に届かせるために、内容を検討していく必要がある。そのためにも、子どもや保護者の実情を把握し、思いや考え方を受け止めながら取組を進めていくようにする。この意味からも学校と家庭や地域が話し合う機会を設けていくことが重要となる。
	→懇談会や学校運営協議会、PTA 総会等に、できる限り多くの方に参加いただけるようこれまで以上に呼びかけていくと共に内容や運営方法等を工夫・改善する。